



【開館時間】10:00 ~ 17:00

【観覧料】無料 【休館日】日曜休館

主催 = 駐日韓国大使館 韓国文化院

協力 = 沈壽官窯、陶祖李參平窯、日本民藝館

韓国文化院  
ギャラリー MI (1階)  
〒160-0004 東京都新宿区西谷4-4-10  
Tel. 03-3357-5970

2014. 3. 5(水) ▶ 3. 22(土)

# 海峽を つなぐ陶匠 400年の旅

李參平と沈当吉(沈壽官家初代)をめぐって



# 海峽を つなぐ陶匠 400年の旅

李參平と沈当吉(沈壽官家初代)をめぐって



漆付秋草文甕  
(朝鮮時代 18世紀前半)

日本陶磁史の発展は、朝鮮陶工の力を抜きにしては語れません。16世紀末に起こった文祿・慶長の役(韓国では壬辰倭寇、丁酉西乱)により、韓半島から日本に連れて来られた陶工たちの技の移植により、日本の陶磁技術は飛躍的に前進したのです。そして、西日本を中心に定着した朝鮮陶工たちは、萩焼(山口県)、上野焼(福岡県)、高取焼(福岡県)、右田焼(佐賀県)、武雄・唐津焼(佐賀県)、薩摩焼(鹿児島県)などを興していったのであります。

中でも、日本陶磁史に大改革をもたらした有田焼の創始者といわれる陶匠 李參平(日本名「金ヶ江三兵衛」)と、薩摩焼の祖として400年以上にわたり朝鮮陶工の血脈を守り続けてきた沈壽官家の初代にあたる陶匠 沈当吉は、その代表的な存在といえましょう。

彼らは、父祖の地である韓国から持ってきた陶磁の種を母の地である日本に根付かせ、その子孫や仲間たちは幾多の苦難を乗り越えながら、有田焼(伊万里焼)や薩摩焼を新しい日本の伝統文化として開花させ、海外でも高い評価を得るまでに発展させていったのです。

二つの祖国から命を授かった有田焼(伊万里焼)と薩摩焼。この展覧会では、陶祖李參平と沈当吉ら先人たちの足跡に焦点をあてながら、パネルによる解説や作品・資料によって、それぞれの400年の歩みと彼らが生み出した陶磁器の魅力を紹介し、ます。

## ◎記念催事

講演会シリーズ2014「韓日文化交流」第3回

「海峽をつなぐ陶匠400年の旅-李參平と沈当吉(沈壽官家初代)をめぐって」

日時: 2014年3月12日(水) 開場 18:30 開演 19:00

会場: 韓国文化院 ハンマダンホール

講師: 杉山亨司(日本民藝館学芸部長)

定員: 300名(お申し込みはお一人様2名まで)

入場無料(事前のお申し込みが必要です)

主催: お問い合わせ = 駐日韓国大使館韓国文化院 tel.03-3357-5970



1. 漆付秋草文甕 (江戸時代 17世紀前期)
2. 白磁摩訶庵 (江戸時代 1701年)
3. 白磁摩訶庵 秋草文甕 (江戸時代 18世紀)
4. 白磁高岡 朝顔文鉢 (朝鮮時代 18世紀後半)
5. 獅子文竹磁器花瓶 (十二次 北朝時代 1300 - 1360年頃)
6. 陶祖白泥焼文甕 沈壽官家初代 二代 沈当吉 (江戸時代 17世紀後半)
7. 漆付甕 (江戸時代 1600年代)



【交通】丸の内線「西谷三丁目」駅1番出口より新丸の内線徒歩3分  
〒160-0004 東京都新宿区西谷4-4-10 Tel.03-3357-5970

駐日韓国大使館  
한국문화원 韓国文化院

<本展についてのお問い合わせ先>

○日本民藝館(担当: 杉山亨司) Tel.03-3467-4527 ○駐日韓国大使館韓国文化院 Tel.03-3357-5970